

レポート 苦小牧地区 沖縄平和の旅 2019.1.5〜8

すべての器官でわかる 嶋谷 和 なごみ

平和を愛する民

2019年1月5日から8日の3泊4

日、私たちは沖縄へ平和の旅に行きました。(中高校生5名、スタッフ3名)私が沖縄へ参加することを決めたのは、正しいか誤っているかわからない様々な情報がとびかう中で、沖縄で起こったこと、今もなお行われていることを自分の目で見て身体で感じたい、そして自分の経験の糧にしたいと思ったからです。「かつて琉球の先人たちは平和を愛する民として海を渡りアジア諸国と貿易を結んだ」沖縄平和祈念資料館に入ると真っ先にこの言葉が目に入ってきました。

私は、南部戦跡を見たこともあつてか、ガマを再現した設備の中で泣きました。最初からじっくりと沖縄の資料を読み、沖縄の歴史や本当に人がここで戦いを繰り広げられたのだという現場を観てきたのもあつたと思います。

自分が生きた人生が大好き

なぜ日本の本部(司令部)は沖縄の損害を伝えられても「まだ戦え」と命令したのか。それは、次に来るであろう日本本島への襲撃に備えるための準備をしていたからであり、その準備が整うまでは「時間稼ぎ」が必要だったのです。

沖縄戦について北海道に帰ってきてか

ら調べてみると、わりとすぐに「誇りある日本の歴史」「お国のために戦った」など出てきました。

私はお国の為に、全国民の為になつてくれた、誇りあることだ!とは到底、天地がひっくり返つても思えません。私は自分の命が大事です。自分が生きた人生が大好きです。それでも、そう思わないのはなぜか、沢山考えましたが、今はまだわかりません。いつか答えができればいいと思います。

佐敷教会へ

二日目は、1日目から最終日まで沖縄を案内、説明、乗り物の運転をして下さった金井創先生が牧師さんをして、南城市佐敷教会へ行き、礼拝にも出席させて頂きました。金井先生の説教では、『敵を愛しなさい』という言葉はその人を人間として大切にしない、そう思うには自分が何よりも素晴らしいと思うことが大切です。組織と話すのではなく、個人、相手を一人の人として話すことで見えてくるものがあります。』とお話されていました。

金井先生は辺野古の基地移設反対のため「不屈丸」という船を出し、埋め立てされている場所まで行き声を出したりと反対運動を行っています。時に金井先生の船に海上保安官が乗り込

み運動をやめるよう言ってくることもあるそうです。最近、金井先生は海上保安官の人にお菓子を渡したり、話をしたり、海の上でしたそうです。そこでは、海上保安官は救助のプロなので、反対運動している人でも海で助けを求められたら、命がけでも助けますと言われたそうです。組織から離れ個人になればなるほど話してくれるとのことでした。行かなければ、話してみなければわからないものがある。出会ってからは始まりなこともあると思いました。

戦争はいけないという風

学生の頃から沢山教えられる戦争はいけないものという考え、ただそこにはどうしていけないのかという一人一人の考えが少しばかり足りないのではないかと私は今回思いました。戦争中の「日本は正しい、戦争は良い」という世間の風に似た、「戦争はいけない」という風になつてはいけないと思います。何十万と戦死したことを言葉で伝えられて頭で納得することはできませんが、こうして名前と身体で(「平和の礎」に)向き合った時、やりきれない思いと、戦死した人の人生が少しみえてきて、ようやく全身で理解することができました。私は今回、沖縄に行くことでやつと戦争はいけないと全ての器官でわかることができたような気がします。

ゆっくりでいいんだ

二日目のお昼は佐敷教会の方が、郷土料理をふるまってくれました。沖縄では小・中学生の時、特に平和

についての勉強に力を入れているそうです。しかし、その反動からか高校、大学にあがると戦争のことについて触れなくなり、自分の中にしまいこんでしまうそうです。その佐敷教会のお兄さんもそうだったらしいのですが、ドイツに留学し、現地から離れることによつて見つめることができるものがあった。一気に自分の中に入れるのではなく、自分のペースでだんだん落とし込むのがいいと言ってくれました。この言葉ですごく心が軽くなり、すべてを真面目に真剣に受け取ると疲れるのは皆同じで、ゆっくりでいいんだと思うことができました。1日を通して本当に良い時間を頂きました。昼食、夕食、その他沖縄の文化がおもてなしをしてくださりありがとうございました。

